

## 2017年度第5回支部集会【関西支部】開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会

立命館大学国際言語文化研究所（パネルディスカッションのみ）

開催日：2017年9月23日（土・祝） 会場：立命館大学衣笠キャンパス

参加者：101名（会員65名・一般36名）

支部活動委員会発足後はじめての関西での支部集会が2017年9月23日（土）、立命館大学衣笠キャンパスで開催されました。

本集会では、近年、喫緊の教育課題として注目を集めている外国ルーツの児童生徒の教育に焦点をあて、ブース展示とパネルディスカッションが行われました。ブース展示では関西地域で年少者教育を行っている団体や学術団体が日ごろの活動内容や現在抱えている課題について報告し、参加者と活発な意見交換を行いました。また、パネルディスカッション「外国ルーツの高校生のリテラシーの現状と展望」は、一般会員からの応募企画第1号として実現し、高校、地域、教員養成、言語使用の実態調査という多角的な視点から、これまであまり注目されてこなかった外国ルーツの「高校生」の問題を取り上げました。さらにチャレンジ委員会による発表応募支援セミナー＆個別相談では、学会発表のイロハの指南や応募書類に関する個別相談を行いました。



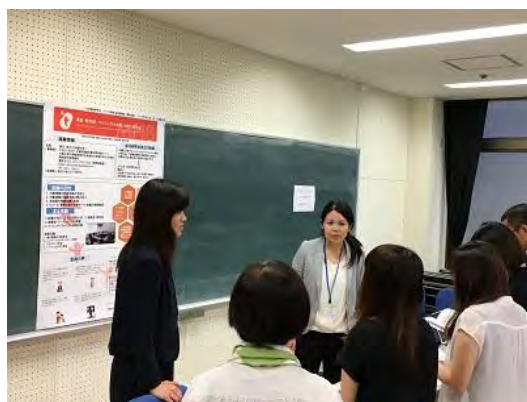
開会式  
「公益社団法人日本語教育学会の役割」



応募企画パネルディスカッション  
「外国ルーツの高校生のリテラシーの現状と展望」



発表応募支援セミナー＆個別相談  
（チャレンジ支援委員会）



ブース展示  
「年少者教育関係団体の活動報告」

残念ながら今回は、応募形態や応募締切の周知が不十分であったこともあり、公募した口頭発表は独立した発表時間枠を設けることができる採択数がなく取りやめになってしまいました。一方で、今回のテーマとの関連で、これまで学会活動に参加する機会があまりなかった学校教育関係者をはじめとする非会員にも多く参加いただくことができ、広く社会に開かれた新しい学会にふさわしい会となりました。今後の支部集会では学会発表の機会も提供しつつ、関西地域の日本語教育や関連領域の話題について様々な立場の人たちが議論、情報共有する場を創っていきたいと思います。

会場校の立命館大学の有田節子先生、松本理美さんをはじめ、多くの方々のご協力を得て、新生関西支部集会を無事スタートすることができましたこと、あらためて当日の参加者や関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

(支部活動委員 和泉元千春・亀田美保)

\*パネルディスカッション「外国ルーツの高校生のリテラシーの現状と展望」の配布資料を日本語教育学会ウェブサイト上で公開しております。ご興味のある方はぜひご覧ください。

[http://www.nkg.or.jp/wp/wp-content/uploads/2017/09/shibu\\_2017\\_5\\_panel.pdf](http://www.nkg.or.jp/wp/wp-content/uploads/2017/09/shibu_2017_5_panel.pdf)